

## SSR 平成 19 年度プロポーザル

### 1. 調査研究テーマ名

プライバシー影響評価のアセスメント手法に関する調査研究

### 2. そのテーマの戦略的意義 / 位置付け

2005年4月の個人情報保護法の全面施行を契機に個人情報保護に対する関心が高まっている。個人情報は一旦漏洩するとその回収及び被害の回復が事実上不可能であり、利用者の個人情報取扱事業者に対する信頼を失い、利用者が経済的被害を伴う可能性もあるため、その保護のために十分な事前対策を実施する必要がある。

したがって、個人情報を扱う情報システムにおいて、システム稼動前に個人情報の適切な取扱いが可能かどうかを評価するアセスメント手法に注目が集まっている。

この分野で先行するカナダ、米国等では、特に行政機関が市民のプライバシー保護の方策を策定するためのコンプライアンスフレームワークとしてとして、プライバシー影響評価 PIA (Privacy Impact Assessment) と呼ばれるアセスメント手法が開発されている。

図1に示すように、PIA とは、個人情報の収集を伴う情報システムを新規に構築する際にプライバシーへの影響を「事前に」評価し、その回避または緩和のための運用・技術的な対策の変更を促す、プライバシー保護のための一連のプロセスである。

カナダや米国等の一部の国では PIA 実施の法的な根拠が存在する。一方、日本にはプライバシーへの影響評価を実施する法令が存在しない。しかし、個人情報保護に関するコンプライアンス意識の高まりへの対応や、海外とのインターフェースをもつ政府システムでの国際的な説明責任確保の必要性等の面から、日本においても現行の法制度で PIA を自主的に実施することが望ましい。

つまり、今後増加が考えられる個人情報を扱う行政および民間基幹系システムの構築において、利用者の権利を確保し、円滑に開発を進める、日本の社会に適合するフレームワークの構築と法的整理などの調査研究が必要である。

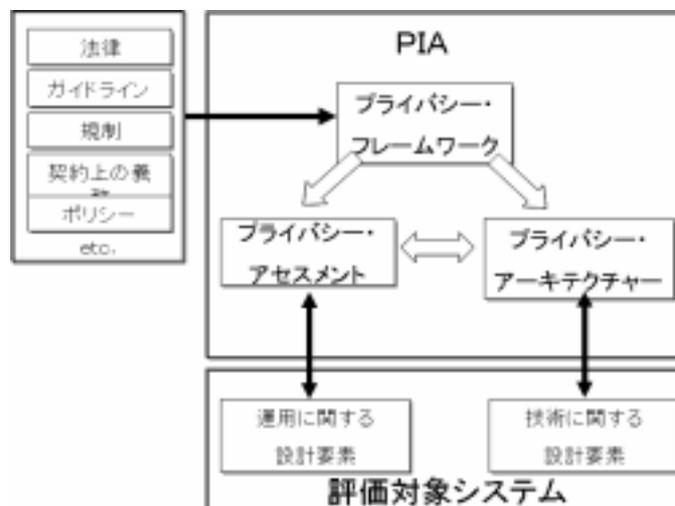


図1 米国、カナダにおけるPIAフレームワーク

### 3. 調査研究の概要

本研究は、議論の要点を絞るため、究極の個人情報といわれるバイオメトリクスを扱う情報システムのアセスメント手法の確立を図ることを目的とする。ただし、開発した手法はバイオメトリクスに関する個人情報に限定されるものでない。

具体的には下記の調査研究を実施する（実施優先度は（1）（2）（4）（3）の順）。

- (1) PIA 実施が進む海外における調査を行い、日本で実施する場合の課題の検討を行う。具体的には、法整備、具体的な実施事例などを、Web 等で入手可能な資料の調査・分析に加え、海外から PIA の専門家を招聘あるいは海外渡航調査を実施する予定である。特に、法制度を根拠として政府機関、州政府での採用が進んでいる米国、カナダ、および、専門のコンサルティング企業が存在するオーストラリアを重点的に調査する。専門家の招聘あるいは現地調査を行う。
- (2) 調査した結果を用い、日本で PIA を実施する場合の課題分析とコンプライアンスフレームワークを検討し、PIA 実施のためのガイドラインを作成する。
- (3) ケーススタディとして、ある特定の応用分野における仮想的な PIA トライアルを行う。特にバイオメトリクスはプライバシーの定義が不明確であり、バイオメトリクスとプライバシーの関係を明確にした上で、ガイドラインなどの策定を行う。
- (4) PIA に関するワークショップを開催し、日本での啓蒙を図る。

### 4. 調査研究の進め方（共同研究者など）

大学と企業のコラボレーション体制（WG）を設置し進める（図2）。調査研究主体は学側、具体的な事例の提示、レビューは企業側という位置づけで進める。

#### 体制

##### 大学側

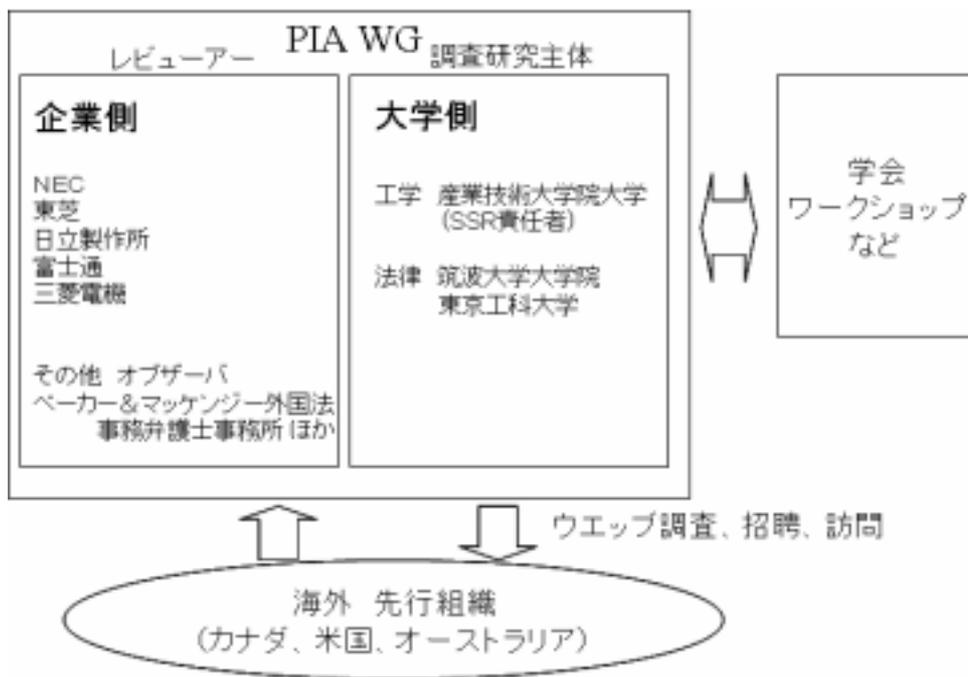
首都大学東京 産業技術大学院大学 瀬戸洋一（取りまとめ）、清水将吾  
筑波大学大学院 新保史生  
東京工科大学 村上康二郎

##### 企業側（案）

NEC 共通基盤ソフトウェア研究所 小川隆一  
東芝ソリューション 山田朝彦  
日立製作所 システム開発研究所 三村昌弘 佐藤嘉則  
富士通 富士通研究所 森原隆  
三菱電機 先端技術総合研究所 鷺見和彦

##### オブザーバ

弁護士 六川浩明（東京青山・青木・狛法律事務所）



申請者連絡先

公立大学法人 首都大学東京 産業技術大学院大学

産業技術研究科 教授

瀬戸 洋一

1400011 東京都品川区東大井 1-10-40

電話 03-3472-7831

ファックス 03-3472-2790

e-mail: [seto.yoichi@aiit.ac.jp](mailto:seto.yoichi@aiit.ac.jp)

## 研究代表者の略歴

瀬戸洋一

1979年（株）日立製作所入所 システム開発研究所にて、衛星画像処理、地理情報処理、情報セキュリティの研究に従事。

2006年4月 公立大大学法人 首都大学東京 産業技術大学院大学 教授に就任。リスク管理、情報セキュリティの教育研究に従事。

バイオメトリクスおよび情報セキュリティ関係の書籍を執筆。プライバシーおよびデータ保護関係の受託研究を実施（2006年度法務省、2006年度経済産業省）

ISO/IEC JTC1/SC37 専門委員会 委員長、電子情報通信学会バイオメトリクスセキュリティ研究会委員長、バイオメトリクスセキュリティコンソーシアム議長。

工学博士、技術士（情報処理）。